

事業名 見てみよう！体験してみよう！私の防災

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家
 [後援] 熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会
 [期日] 令和5年12月9日(土)～12月10日(日)
 [活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家
 [参加者] 25名〔高校生15名(女10名、男5名) 中学生10名(女3名、男7名)〕
 [講師] 竹内裕希子氏 (国立大学法人熊本大学 教授)
 永田紘樹氏 (阿蘇ジオパーク推進協議会事務局 事務局長)
 坂本昂陽氏 (me-life 代表)
 [担当職員] 4名
 [ボランティア] 4名(内1名は社会教育演習生)

1 趣旨

自然災害発生時の被害(二次被害を含む)を最小限にとどめるための方策(減災)についての知識を身に付けさせる。また、災害に関する各種の学びや体験の場を設定することで社会を支える一員としての自覚を高め、次世代の防災リーダー・災害ボランティアなどの活動への第一歩につなげる

2 目標

- 事後アンケートにより、参加者の8割が事業について「満足」と回答する。
- 事後アンケートにより、参加者の8割が災害時、災害後の自分の役割についての知識が「身についた」と回答する。
- 事後アンケートにより、参加者の8割が災害時、災害後の自身の役割や行動について「どのような行動・活動ができるか」を具体的にイメージして回答することができる。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

時刻	令和5年12月9日(土)(1日目)	時刻	令和5年12月10日(日)(2日目)
10:00	受付 @3Fロビー	6:30	起床(6:30)
10:10	開会式 @1-3研修室 オリエンテーション		洗面・身じたく・部屋掃除
10:25	移動	7:30	朝食・準備
11:20	【見学】 震災遺構を通して災害を学ぶ (熊本地震震災ミュージアムKIOKU) 活動①	8:15	荷物移動・部屋点検
12:50	昼食(弁当)	8:45	諸連絡 @中研修室
13:10	移動	9:00	【講話・演習】 自分でできることを考えよう① (避難セットを自分でそろえてみよう) 活動⑤
14:00	【体験】 チームでの活動を通し、避難時に大切なことに気づく (チームビルディング・ブラインドウォーク等) 活動②	10:30	【講話・交流】 自分でできることを考えてみよう② (同世代の仲間とできることを考える) 活動⑥
15:10	【講話・演習】 避難者の多様性を知る (女性、外国人、高齢者、宗教等について) 活動③	12:10	昼食
15:30	移動	12:15	全体の振り返り
16:30	【体験】 野外調理・交流 活動④	13:30	閉会式 @中研修室
17:00	移動	14:00	解散(14:30予定)
20:00	移動		
21:00	入浴		
22:00	就寝準備など		
22:30	消灯(22:30)		

(2) 活動の様子



【見学：熊本地震ミュージアム】



【体験：チームビルディング】



【体験：野外調理】



【講話・演習：自分でできることを考えよう①】

4 評価、成果と課題

(1) 評価

①参加者の満足度

設 問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
「見てみよう！体験してみよう！私の防災」の内容に満足できましたか。	回答数(人)	25	0	0	0
	割合(%)	100	0	0	0
防災、減災についての知識や技能が身につきましたか。	回答数(人)	18	7	0	0
	割合(%)	72	18	0	0
地震の役割や行動について「自分でできること」を具体的にイメージすることはできましたか。	回答数(人)	17	8	0	0
	割合(%)	68	32	0	0

②参加者の声

- ・ 日本は地震が多いから防災・減災についてしっかり考えることが大事だと思った。災害が起きたら自分だけでなく、助け合って皆で乗り切りたい。
- ・ 同世代の人が防災（ボランティア）に関わっていることに感動し、自分自身もできることを見つけて行動に移したいと強く感じた。
- ・ 二日間協力して、目標を達成し、自分の将来への一歩を踏み出したのではないかと思った。たくさんの知識を得ることができたので、周りの人にも教えることができたらいと思った。

(2) 成果

- 参加者全員が事業に満足できたと回答し、また「自分でできること」を具体的にイメージすることができたと回答している。
- 子供たち同士だけでなく、講師やボランティア、スタッフとの交流する場を設定したので、「自分でできること」をどのように実現すればいいのか講師とディスカッションしたり、防災だけでなく進路や大学、高校について相談したり参加者同士で積極的に交流する姿が見られた。
- 同じ高校から友達と参加した学生は事業後に所属校で防災の企画の実施に向けて計画を始め、防災リーダーとして一歩を歩み始めている。

(3) 課題

- 今回の野外調理や交流の時間帯はそれほど気温が低くならなかったが、計画の段階から防寒対策など苦慮した。野外調理を企画する場合、開催時期の検討も必要と感じた。